

Ⅷ 沿革

岩手県林業試験場		岩手県立林業講習所		岩手県林木育種場	
S22	「岩手県林業試験場」を胆沢郡相去村（現金ヶ崎町六原）に設置	S29	「岩手県目立技術指導所」を林業試験場に併設	S33 S34	六原採種園造成開始 六原採種園造成開始
		S35	「岩手県製材技術指導所」に改名		
		S37	「岩手県製材技術指導所」を廃止し「岩手県製材技術者養成所」を同地に設置		
S39	庁舎を滝沢村砂込の県立農業試験場庁舎隣接地に建築、移転	S39	同左	S39	「林業用原種苗畑」を江刺市稲瀬に開設
		S41	「岩手県製材技術者養成所」を廃止し「岩手県立林業講習所」を同地に設置		
S45	岩手町に四日市試験地を開設			S43	「岩手県林木育種場」を江刺市稲瀬に設置し、「林業用原種苗畑」を廃止 侍浜採種徳園を開設
				S48 S49	林業展示館を場内に設置 昭和天皇・皇后両陛下が場内でお手播（全国植樹祭で行幸啓）
S56	庁舎を隣接地に独立・移転				
S62	浄法寺町に浄法寺試験地を開設			S58	「岩手県立緑化センター」を場内に設置
岩手県林業技術センター					
H05	・岩手県知事部局行政組織規則の一部改正により、岩手県林業試験場、岩手県立林業講習所及び岩手県林木育種場が統合一体化し、岩手県林業技術センターとして矢巾町に創設した。 ・林業技術センター条例及び同施行規則により林業技術センターにおける研修の実施方法及び受託試験等の手数料の徴収を定めた。 ・岩手県林業技術センター受託試験実施要領を制定した。 ・緑化センター条例及び同施行規則を一部改正した。 ・岩手県林業技術センター開所式を開催した。（4月22日） ・所長、次長及び部長の職が置かれ、庶務部、企画指導部、森林資源部、木材部、特用林産部及び育種緑化部の6部体制となり、職員定数が30名となった。 ・旧林業講習所の庁舎を林業技術センター滝沢駐在とし、研修業務を継続した。 ・材木育種業務及び岩手県緑化センターの管理を（社）岩手県緑化推進委員会に委託した。 ・林業技術センター研修実施要領を制定した。 ・林業技術センター発足に伴い岩手県林業研究開発促進要領を改正した。				
H06	・研修宿泊棟及び林業機械研修棟の完成（センター敷地内）に伴い、研修業務を林業技術センターに移行し、林業技術センター滝沢駐在を廃止した。 ・岩手県知事部局行政組織規則の一部改正により、次長が副所長、庶務部が総務部となり、職員定数が1名増加し31名となった。 ・林業技術センター完成記念講演会を開催した。（4月20日） ・新技術解説シリーズ第1号を刊行した。 ・岩手林業祭第2会場として第1回「もりの博士おもしろ広場」を開催した。（10月1～2日） ・紀宮清子内親王殿下が林業技術センターを視察された。（10月14日、全国ボランティア岩手大会ご出席の折） ・林業技術センターたより第1号を発刊した。				

	・岩手県林業技術センター研究成果速報第1号を発行した。 ・第1回岩手県林業技術センター研究成果報告会を開催した。(平成7年2月6日) ・岩手県林業技術センター研究報告第5号を刊行した。('岩手県林業試験場研究報告'第4号を引継ぐ)
H07	・中国の研修生2名を受け入れた。(6月～翌年3月) ・試験研究実施に関する内規及び業務運営委員会内規を制定した。 ・県試験研究機関・所長懇談会が発足し、林業技術センター所長が初代会長となった。 ・高性能林業機械及び保管庫を整備した。 ・岩手県高性能林業機械貸付要領を制定した。 ・所内に木材利用相談センターを開設した。(平成8年1月9日) ・「林業技術センターにおける共同研究と共同出願に関する要領」を制定した。
H08	・高性能林業機械オペレーター養成研修を実施した。 ・林業研究開発調整要領を制定した。 ・ホームページを開設した。 ・広葉樹の難燃材を開発し、「建築用難燃材及び建築用難燃材の製造方法」として特許を出願申請した。 ・矢巾試験地(6.86ha)を開設した。
H09	・中国の研修生1名を受け入れた。(平成9年6月～平成10年3月) ・韓国で開催された韓国全羅北道・岩手県漆共同シンポジウムに職員が出席した。 ・林業技術センター50周年記念式典、記念講演会、成果報告会及び施設見学会を開催した。(11月12日) ・林業技術センター50周年記念祝賀会が開催された。(同祝賀協賛会の主催) ・岩手県林業技術センター成果選集を刊行した。 ・滝沢試験地が農政部に所管替えとなった。(12月18日付) ・50周年記念誌「岩手県林業技術センター五十周年のあゆみ」を刊行した。 ・県立緑化センターで林野火災が発生し、0.3haを焼失した。(平成10年3月30日)
H10	・中国の研修生1名を受け入れた。(6月～翌年3月) ・四日市試験地が雪害を受けた。(平成11年3月15日) ・韓国で開催された韓国漆関連技術交流会に職員が出席した。
H11	・岩手県知事部局行政組織規則の一部改正により、林業専門技術員が木材振興課から林業技術センターへ移り、職員定数が4名増加し35名となった。 ・ネパールの研修生1名を受け入れた。(6月～翌年3月) ・国際協力事業団(JICA)の要請により、職員が松くい虫被害調査のため中国へ派遣された。 ・岩手県林業普及事業50周年記念式典、記念講演会、全体交流会を開催した。(平成12年1月13日) ・アカマツ材の表面硬化処理技術を開発し、「単板積層塗装材」として特許を出願申請した。 ・ヤマブドウでは全国初となる品種登録申請を行った。(2系統) ・岩手県林業研究開発推進目標(平成11～22年度)を策定した。
H12	・油圧ショベル等のベースマシンによる簡易な集材方法を開発し、「ウィンチ搭載油圧ショベル及びウィンチ搭載ショベルを用いた集材方法」として特許を出願申請した。 ・新たに2系統のヤマブドウについて品種登録を申請した。
H13	・工藤健氏より岩泉試験地(「200年の森」)の寄贈を受けた。 ・新たに1系統のヤマブドウについて品種登録を申請した。
H14	・センター開所10周年記念植樹を行った。 ・菌根性きのこの安定生産技術の研究開発成果である「菌根性きのこの用接種シートの製造方法」について特許出願申請した。 ・木質バイオマスエネルギー利用(管理棟及び実験棟暖房用)実証施設としてチップボイラーを導入した。
H15	・センター隣接地東側に新たに試験地7.98haを開設した。 ・パラグアイ共和国から1名、アルゼンチン共和国から1名の海外技術研修生を受け入れた。 ・人工ホダ場施設(520㎡)を導入した。
H16	・育種緑化部を森林資源部に統合した。 ・平成12年3月に出願申請した「単板積層塗装材」が特許を取得した。 ・非加圧式防腐処理方法による木質系防火材料の製造方法を開発し、「不燃木材の製造方法」として特許を出願申請した。 ・ヤマブドウ(涼実紫1号～5号)が品種登録され、一般農林家への苗木供給が開始された。
H17	・特用林産部と木材部を統合し、林産利用部とした。 ・平成14年8月に出願申請した「菌根性きのこの用接種シートの製造方法」が特許を取得した。 ・木質ペレット燃焼灰に生成する六価クロムの抑制方法を開発し、「木質固形燃料の製造方法及び木質固形燃料」として特許を出願申請した。
H18	・企画指導部の名称を企画研修部に変更し、林業専門技術員が担当していた普及指導事業研修の一部を同部が担当することとなった。 ・指定管理者制度の適用により、岩手県立緑化センターの管理が所掌事務から離れた。

	・センターが開発し特許出願中の不燃木材を内装に使用した「いわて県民情報センター」が盛岡駅西口にオープンした。 ・機関評価委員による研究評価を初めて実施した。 ・シイタケ SR-1 の品種登録申請を行った。
H19	・林業専門技術員の名称を林業普及指導員に改めた
H20	・森林資源部と林産利用部を統合して研究部とし、総務部と企画研修部の企画部門を統合して企画総務部とし、林業普及指導員と企画研修部の研修部門を統合して研修部とする、3部体制となった。 ・いわて小型樹皮ボイラーを開発し、特許を出願申請した。
H21	・平成 18 年 11 月に申請したシイタケ SR-1 が品種登録された。 ・平成 17 年 2 月に申請した「不燃木材の製造方法」が特許を取得した。
H22	・平成 23 年 3 月 11 日 東北地方太平洋沖地震が発生し、本県で震度 6 弱を記録した。（「東日本大震災津波」と命名される）
H23	・平成 23 年 8 月、岩手県東日本大震災復興計画を策定した。 ・平成 18 年 3 月に申請した「木質固形燃料の製造方法」が特許を取得した。
H24	・平成 18 年 10 月に申請した「搬送装置、搬送装置用キャリッジ及び搬送装置用サポート」が特許を取得した。 ・当センターが単独で開催していた成果報告会を、(独) 森林総合研究所東北支所及び(独) 森林総合研究所林木育種センター東北育種場との合同により開催した。
H25	・煙山試験地で火災が発生し、0.33ha を消失した。（4 月 16 日） ・平成 25 年 8 月 9 日に発生した記録的な豪雨により、当センター敷地内（駐車場内、一部建屋内、調整池など）へ大量の土砂が流入する被害が発生した。 ・平成 21 年 3 月に申請した「ボイラシステム」が特許を取得した。
H26	・東日本大震災津波で被災した防潮林の復旧第 1 号として、5 月 14 日に摂待地区県有防潮林の記念植樹が行われた。その後、生育不良が発生し、その原因対策について調査を実施した。
H27	・ドイツ・ロッテンブルグ大学生ほか 33 名が来所し、センターの概要及び研究について研修した。（5 月 21 日）
H28	・職員が雲南省交流連携事業で、現地研究機関、きのこ流通加工業者及び栽培施設等の調査を行った。（8 月 8～18 日） ・台風 10 号により岩泉試験地に向かう橋が流失した。（8 月 30 日） ・中国科学院昆明植物研究所の研究員 2 名が来所し、マツタケに係る研究成果を説明するとともに四日市試験地の現地調査を行った。（9 月 28～29 日） ・中国雲南省人民政府 13 名が来日し、農業シンポジウムが開催され、当センターから「本県におけるマツタケの研究」について説明した。（11 月 30 日～12 月 1 日） ・いわて林業アカデミー開講に向けて、施設改修等の準備を行った。
H29	・いわて林業アカデミーがスタートした。開講式に知事関係者 80 名が出席し、第 1 期生 15 名が研修を開始した。（4 月 11 日） ・まち・ひと・しごと創生担当大臣が来所し、いわて林業アカデミーの実習を見学した。（6 月 28 日） ・岩手県議会農林水産委員会の 6 名が来所し、いわて林業アカデミー研修生と意見交換を行った。（9 月 5 日） ・雲南省昆明において、第 3 回農業シンポジウムが開催され、職員が出席した。（10 月 26 日） ・中国雲南省林業庁職員ら 6 名が視察に訪れた。（11 月 17 日） ・在日南アフリカ共和国大使館職員 3 名が視察に訪れた。（11 月 28 日） ・内閣府大臣政務官が来所し、いわて林業アカデミーとの意見交換を行った。（2 月 8 日） ・知事関係者 80 名が出席し、いわて林業アカデミー終了証書授与式を行った。（3 月 16 日）
H30	・平成 17 年 1 月 19 日に品種登録した涼実紫（すずみむらさき）1、2、3、4、5 号（山ぶどう）は、平成 30 年 1 月 19 日までの登録とし、平成 30 年度は更新しないこととした。 ・いわて林業アカデミー開講式に農林水産部長ら関係者 80 名が出席し、第 2 期生 18 名が研修を開始した。（4 月 11 日） ・職員を含む日本岩手大学訪問団が中国雲南師範大学を訪問し、学術交流の協力について座談会が行われた。（4 月 18 日） ・平成 30 年度雲南省連携調査事業（林業分野）第 1 回調査事業により、職員 2 名が中国科学院昆明植物研究所を訪問しアミガサタケの栽培技術の指導を受ける等、現地調査を行った。（7 月 22 日～8 月 1 日） ・内閣府特命担当大臣が地方創生に関わる視察のため来所し、いわて林業アカデミー研修生と意見交換を行った。（8 月 1 日） ・岩手県、中国雲南省人民政府等の主催による農業シンポジウムが盛岡市で開催され、中国雲南省から 16 名、岩手県から 34 名の参加があり、職員が講演等を行った。（9 月 5 日） ・中国雲南省人民政府農業シンポジウム訪問団 12 名が視察に訪れた。（9 月 6 日） ・平成 30 年度雲南省連携調査事業（林業分野）第 2 回調査事業により、職員 2 名が雲南農業大学を訪問しアミガサタケ栽培技術研究に関する意見交換等、現地調査を行った。（12 月 5 日～15 日） ・岩手県議会議長ら関係者 80 名が出席し、いわて林業アカデミー終了証書授与式を行った。（3 月 12 日）
R01	・いわて林業アカデミー開講式に農林水産部長ら関係者 80 名が出席し、第 3 期生 17 名が研修を開始した。（4 月 10 日） ・職員が中国雲南省を訪問し、雲南省連携調査事業第 1 回現地調査を行った。（6 月 1 日～10 日） ・職員が中国雲南省を訪問し、雲南省連携調査事業第 2 回現地調査を行うとともに農業シンポジウム（11 月 15 日）に出席し発表を行った。（11 月 8 日～18 日）

	・岩手ウルシ実生生産研究会が設立され、当センターが構成員としてウルシ実生苗の研究を推進することになった。(2月1日) ・岩手県議会議長ら関係者 80 名が出席し、いわて林業アカデミー終了証書授与式を行った。(3月10日)
R02	・いわて林業アカデミー開講式に、新型コロナウイルス感染症の影響で農林水産部長以下県関係者のみ 46 名が出席し、第 4 期生 17 名が研修を開始した。(4月8日) ・岩手県議会森林・林業政策研究会会長ら県議会議員 29 名が、いわて林業アカデミーの研修状況の調査のため来所した。(11月5日) ・新型コロナウイルス感染症の影響で、農林水産部長以下県関係者のみ 37 名が出席し、いわて林業アカデミー修了証書授与式を行った。(3月9日)
R03	・岩手県と雲南省が締結している協定に基づき、アミガサタケ及びマツタケの栽培に関し、雲南農業大学との共同研究に関する覚書を締結した。(4月1日) ・いわて林業アカデミー開講式に、新型コロナウイルス感染症の影響で農林水産部長以下県関係者のみ 47 名が出席し、第 5 期生 16 名が研修を開始した。(4月7日) ・新型コロナウイルス感染症の影響で、農林水産部長以下県関係者のみ 44 名が出席し、いわて林業アカデミー修了証書授与式を行った。(3月8日)
R04	・いわて林業アカデミー開講式に、新型コロナウイルス感染症の影響で農林水産部長以下県関係者のみ 36 名が出席し、第 6 期生 15 名が研修を開始した。(4月7日) ・新型コロナウイルス感染症の影響で、農林水産部長以下県関係者のみ 36 名が出席し、いわて林業アカデミー修了証書授与式を行った。(3月7日)
R05	・いわて林業アカデミー開講式に農林水産部長ら関係者 20 名が出席し、第 7 期生 15 名が研修を開始した。(4月6日) ・中国科学院昆明植物研究所が主催する国際セミナーに職員が参加し、マツタケの研究成果に係る講演を行った。 ・中国科学院昆明植物研究所の研究者を招聘し、アミガサタケの栽培技術に関する指導を受けた。 ・岩手県議会議長ら関係者 50 名が出席し、いわて林業アカデミー終了証書授与式を行った。(3月5日)